

Kazuyuki Miyamoto + Tetsuro Funayama
宮本一行 + 船山哲郎

Outer Edge
知覚の外縁

2021.2.13 sat - 5.09 sun

会期中無休 / 入場無料 9:00-18:00

秋田公立美術大学ギャラリー

BIYONG POINT

秋田市八橋南1-1-3 CNA秋田ケーブルテレビ社屋内

2019年度BIYONG POINT企画公募 採択企画

主催 秋田公立美術大学、NPO法人アーツセンターあきた
協力 CNA秋田ケーブルテレビ

お問い合わせ NPO法人アーツセンターあきた
〒010-1632 秋田市新屋大川町12-3
秋田公立美術大学 アトリエももきだ内

Tel 018-888-8137

E-mail bp@artscenter-akita.jp

Web www.artscenter-akita.jp



BIYONG POINT内サーベイの様子

本展「Outer Edge / 知覚の外縁」は、視覚・聴覚・触覚からなる3つの感覚を組み合わせることによって、知覚の外縁に触れることを試みる展覧会です。BIYONG POINT内に特定の自然環境を再構築することを通じて、我々が空間を体験する上で認識している様々な感覚の関係性を読み解きます。今回は、秋田県五城目町に位置する「ネコバリ岩」の周辺環境を対象としました。「ネコバリ岩」は五城目町南端を流れる馬場目川上流部にある、高さ6mを超える巨岩です。川縁にこの巨岩があることによって、水の流れや音の流れといった周辺環境には大きな変化が現れています。

インスタレーションと呼ばれるアート作品は、視覚的な経験に限定されているように見えて、周囲の音環境や、会場自体の空間体験が内包されています。空間の鑑賞体験における周辺環境一既にその場に存在している「音」や「床」への意識は潜在的なものです。ただし、鑑賞者が空間に広がる音やその場に立っている身体感覚に意識を傾けることによって、より豊かな鑑賞体験に繋がると考えています。



ネコバリ岩

Access

秋田公立美術大学ギャラリー BIYONG POINT

秋田市八橋南1-1-3 CNA秋田ケーブルテレビ社屋内



秋田駅西口バスターミナルより、秋田中央交通バス2・3・5番線乗車

「県立体育館前」「秋田市保健所-サンライフ秋田前」停留所下車、徒歩3分

※お車の方は、CNA秋田ケーブルテレビお客様用駐車場をご利用いただけます。

Profile

Kazuyuki Miyamoto / 宮本 一行

1987年千葉県生まれ。武蔵野美術大学造形研究科修士課程デザイン専攻映像コース修了。サウンドスケープの思想を軸に、表現する場の環境を拡張させる映像音響芸術の実践研究を展開している。平時では聴き流されてしまう環境音を抽出し、顕在化させることで、音環境の中に潜在する特性を鑑賞者に提示している。特に近年では、対象とする環境との対話を試みるサウンド・パフォーマンスに取り組んでいる。代表的な活動に、会場である日本酒貯蔵庫の特徴的な音響を引き出して再構成した個展《接触の形跡 2020》、ある空間や時間の空白の中で一時的に新しい秩序を生成することを試みた企画展《VOID 2019》、日本海の荒波が生み出すリズムを聴き取り再構築した映像作品《The First Rhythm 2019》など、環境に潜在する要素に着目した芸術表現を実践している。



Tetsuro Funayama / 船山 哲郎

1992年秋田県生まれ。札幌市立大学デザイン研究科博士後期課程空間デザイン分野修了。建築の分野に軸足を置きながら、周辺環境に対して新たな体験を創出するための屋外インスタレーションの制作を主として行い、東北・北海道の過疎地域を中心に活動を展開してきた。また、映像メディアの持つ空間的特性に着目し、自らの制作した空間作品の記録映像の撮影・編集を通じて、空間を切り取る映像表現手法を模索している。近年は現代音楽家の宮本と共同発表した、インスタレーション作品の周辺環境に内包される音風景を顕在化するための映像シリーズ《Performance on Installation 2018-》や、日本の伝統文化の一つである茶の湯における作法の身体性と茶室の空間特性を手がかりに、コロナ禍においても実践可能な対面の茶会である《新しい茶の湯のためのスタディ 2020-》を公共空間で実践するなど、人間の知覚に着目した実験的な空間表現の試行を続けている。

